



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

○ **広野町公民館訪問・社会教育研修会**



広野町公民館訪問・社会教育研修会の概要

日時 令和6年8月7日(水) 13:00~15:45
場所 広野町公民館(小会議室)
参加者 ・広野町…2名 浪江町…1名 大熊町…1名 相双教育事務所…3名 計7名

I 公民館訪問 (13:00~14:30)

広野公民館の事業実績及び計画

- 社会教育事業(文化教室等運営、はたちを祝う会、図書室運営、文化展及び生涯学習発表会)、放課後支援事業(小学生)、文化・スポーツ振興基金、文化交流施設整備事業 ○保健体育事業等、多岐にわたり精力的に公民館を運営しています。
- 「広野町ふるさと創生大学」では、地域の歴史に焦点を当て、様々な大学や、文化財担当の職員等による専門的な講座を展開しています。
- 令和5年度は年間11回の実施でしたが、令和6年度は年間8回に縮小となりました。町民の学ぶ意欲、地域の歴史に対する関心は高いが、公民館職員の数が少なくニーズに応えられないというジレンマを抱えています。



協議

○【課題】マンパワー不足の中での公民館事業の在り方と地域における役割について

☆相双教育事務所から

公民館の成り立ちや運営、公民館職員の職務について、基本的なことを復習してから、地域の未来を拓くためには「公民館を深く知る」「地域にこだわる」「公民館の仕事に自信と誇りを持つ」ことが大切である。

☆参加者の皆さんから(課題についての意見交流より)

- ・ 私たちの街では、まだ公民館は再開していないが、まずは老人教室から立ち上げようと考えている。広野町と同様に、職員は少ないので手探り状態だが住民のニーズに答えていきたい。
- ・ やはり広野町と同様に正規の職員は少なく、会計年度任用職員や図書館職員、スポーツ関係の職員と協力しながら事業を行っている。
- ・ 単独の自治体で事業を推進するのは大変なので、近隣の自治体と連携しながら活動を広げていっても良いのでは。
- ・ 講座に来てくれている方の中からリーダーを育成し、講座をサークル化していけば職員の方の負担も軽減されるかもしれない。しかし、リーダーの育成には時間がかかるだろう。しかも、講座に参加している方の年齢がかなりの高齢なので、今からリーダーとして活躍していくのは大変かもしれない。
- ・ 公民館のイベントを通して、別々に住むようになってしまった家族の絆を再構築していきたい。

◎ もちろん簡単に解決策は出てきませんが、住民の方々の学ぶ意欲が高く、地域の歴史にも興味があるということは、広野町教育委員会の目標が明確で、広野公民館の生涯学習が充実している証拠です。これからもアイデアを出し合いながら双葉地区の生涯学習や社会教育を牽引して行って欲しいと思います。



II 社会教育研修会（14：40～15：45）

【課題】学校と地域における「地域学校協働活動推進員」の有効活用と具体的な取り組みについて

- 地域学校協働活動は、「地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み」である
- 学校と地域は双方向にお互いのつながりが必要になってくる
- 様々な地域学校協働活動・・・「学びによるまちづくり・地域課題解決型学習・郷土学習」「放課後子供教室」「地域未来塾」「家庭教育支援活動」「学校に対する協力活動」「地域の行事、イベント、お祭り、ボランティア活動への参画」
- 地域学校協働活動推進の担い手とは・・・「地域学校協働活動推進委員」「地域コーディネーター」「公民館等社会教育施設職員」「教育委員会等職員」「学校職員」
- 地域学校協働活動推進員とは⇒地域住民等と学校との間の情報の共有を図るとともに、地域学校協働活動を行う地域住民等に対する助言その他の援助を行うための「地域学校協働活動推進員」が法制化された。（社会教育法第九条の七）



地域学校協働活動推進のキーパーソン

- 地域学校協働推進員の仕事の進め方（校内に専用の一室があるのが理想）
1 打ち合わせ⇒2 目的の共有⇒3 訪問先への依頼⇒4 結果の共有⇒5 サポート募集⇒6 当日
- コミュニティスクールにおいても地域学校協働推進員は大きな力を発揮する。
 - ・地域学校協働推進員が学校運営協議会のメンバーになることによって、学校の教育目標の実現に協力できる。
 - ・普段の協働活動の成果や課題を学校運営の基本方針に反映することができる。
 - ・地域に開かれた教育課程を実現するための大きな力になる。

学校運営協議会で目指す子ども像を共有し、それに基づき地域学校協働活動が行われることがとても大切です。

☆地域学校協働推進員が活躍するためには行政や学校の支援が欠かせない

- * 行政内の理解、学校教育部門と社会教育部門との連携
- * 予算の措置
- * 広報・周知への支援
- * 地域学校協働推進員も学校関係者の一員であることの認知
- * 教職員との連携・信頼関係の構築
- * 教職員には、学習がより効果的になる地域学校協働活動への理解・啓発
- * 校内での居場所、活動拠点を工夫



協議

☆参加者の皆さんから

- 専属の地域コーディネーターがいるので大変助かっている。子どもたちのニーズをとらえ、学校との連携もスムーズである。一方、現在は補助金で賄っている部分が大いなので、今後補助金が減らされたりなくなってしまったらどうすればよいのかは今から課題として捉えている。
- 地域学校協働活動推進委員を専属で配置できれば理想だろうが、予算の関係や引き受けてくれる人材がないという問題がある。現在は公民館職員が兼務しているが、地域学校協働活動推進委員の目指す姿に近づいていると再確認できた。できる範囲で、自信をもって活動していけそうだ。
- 地域が一度バラバラになってしまうと再生させるのは本当に大変である。地域学校協働活動も公民館活動も最少の人数で対応しているので大変だ。
- P T A 活動もなかなか再開できないが、地域の子ども会はようやく一か所再開した。行政が地域に子ども会や P T A を再開するようには言えないので、住民の皆さんの意識の高まりに期待するしかない。避難生活は、田舎の大家族制も崩壊させてしまい、核家族化が進んでしまった。人口は戻ってきても家族構成は以前のように戻らないので、発想の転換も必要になってくるだろう。

◎コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進が期待できる広野町に今後も大注目です。

